

森とイエ通信

Vol.05



森と暮らす まちを育む 森とイエ

清々しく気持ちのよい北海道の初夏がやってきましたね。

春から夏にかけてのこの季節がとても好きです。なんだか、寒くて厳しく長い冬をよく乗り切ったね。と、天空からご褒美がやってくるような、そんな気持ちになります。朝起きて、雪かきや路面状況の心配もなくていいし、新緑の山々を眺めながらのドライブ、ほろ酔いで帰る道すがら夜風が心地よいのも幸せな気分になります。

一般的には年末に行う大掃除も、私はここ数年、暖かくて気持ちのよいこの季節にやっています。年末の寒い時期につらい窓掃除だとしても気持ちよくできますしね。玄関先の掃除や、いきおい余って冷蔵庫の中整理したり、鍋磨いたり、不要なものを分類したりと、普段ブショウでナメケモノの私でも、ひとつ綺麗になると嬉しくて次へとやりたくなってしまいます。虫がまだ少なくて、せかせか動いてもたくさん汗をかかない状況も後押ししてくれます。

それと素敵なイベントが多くて、ついついお出かけしたくなってしまいます。暖かい日差しのもと音楽を聴いたり、美味しいものを食べたり、短い北海道の夏をめいっぱい楽しんでるうちにまた季節が巡って豊穡の秋から寒い冬へ～それはそれでピリッとして気持ちのいい空気感がたまらないのです。このメリハリのある素敵な四季を与えてくれる自然や環境に感謝しつつ、それを楽しめる住まいと暮らしを今日も見つけてお仕事しています。(櫻井百子)



素材のはなし

S-HOUSEの内壁の仕上は主に、浦河在住の左官職人、野田さんによる土塗りです。

土塗りの基本的な材料は、土・ワラ・砂・糊・水、どれも自然素材。これらを泥状に練ったものを塗ってゆきます。荒々しさから繊細さまで、マットなもの、磨いて光沢を出したり・・・と仕上りのバリエーションは無限。何千年もの昔から伝わる「壁の元祖」です。土壁という表面がポロポロと少し弱くて・・・と思われがちです。ところが野田さんの手にかかると、巧みの技、自然素材だけで驚く程丈夫に仕上がります。

ここでは下川産の土を使っています。この土づくりに建築主がDIYで挑戦。野田さんの指導の下、土探し採取し、水を入れて泥にしたものを天日干し、これを砕いた後、篩にかけて異物を取り除き、粒子を揃えるのです。この土づくりが実は大変。ですが、「父親とふたり、黙々と作業する時間はなんだかながたく、いい時間でした。」とのこと。現場での仕上作業はワークショップで行いました。参加者皆真剣に壁に土を塗り付けて。これだけでも素人にはなかなか大変です。最後の仕上は野田さんの一撫で。魔法のようにみるみるうちに美しく仕上がってゆきます。

いつのまにか、皆無言のままその作業に魅入っていました。この壁は、参加者皆それぞれの「私の壁」となったのではないのでしょうか。このワークショップは、建築主だけでなく、地域の方々にも愛される建物となる一つのきっかけとなればとの念です。(照井康穂)



「左官職人 野田肇介のしごと展」2015.7/24～8/9 ギャラリー創(札幌) *詳しくは、検索「ギャラリー創」



* いいもの見つけた *

白樺をモチーフにしたラスクのご紹介。

まず、この白樺模様の可愛らしさに心を奪われました…。袋から出して並べながら、木立風にしようか、たき火のようにしようか…。などと考えている時間もこれまた楽しく(笑)

味は、ほんのりとした甘さのやさしい美味しさです。下川産の白樺樹液が使われているそうで、そんな特別感もたまりません。

下川 & 北海道のお土産にオススメです！
(新海直美)

「しらかばラスク」

320円(税込)

製造者：矢内菓子舗

取扱：森と暮らすwebshop・イチノハシカフ



現場便り 其三

S-HOUSEの工事の中で、今までに経験した事が無い様な窓回りの納まりが有りました。

設計者の照井さんに「どうしてこんなに難しい納めをしなくてはいけなのか」と、何度か聞きましたが、そこには設計者のこだわりが有る様で、引き下がる事は無く、図面通りに工事は進みました。

通常の窓回りの施工と比べ、材料費・加工・手間全てが3倍以上掛かり、「何故？」と、ちょっとがっかりしていたのですが、施主様にも、設計者さんにも喜んで頂ければ報われると思い、頑張って無事に施工は完了しました。

そして、出来上がってみると、設計者の思いが何となくですが分かった気がしています。(山形盛之)



トマトの季節！



森とイエプロジェクトの3軒目のN-HOUSEオーナー、中田さん夫妻はフルトマト農家。東京から下川町に移住して『アテネファーム』という農園を営んでおられます。下川の気候を活かして、真摯に美味しいトマトをつくられている中田さんが、「森とイエ」を選んで下さったのが、とても嬉しいです。これから本格的なトマトの収穫時期になるということで、ご紹介をさせていただきます。

▼▼▼ 中田さんからもメッセージ頂いています。



雪深い2月、トマトの育苗が始まります。外の気温はマイナス20度以下、ハウスの暖房が故障すれば全滅です。緊張の日々が続きます。育苗と並行して定植するビニールハウスの準備も進めます。ハウスごとに細かく設計された施肥計画。幾種類もの肥料、土壌改良剤を手作業で撒いて歩きます。綿密な記録と観察に基づいて、それぞれの場所の個性に合わせて年月をかけて畑を改良していくのです。

そして夏の収穫までに8000本の苗を定植、芽欠き、誘引と一本ずつ丁寧に夫婦2人の手作業で管理していきます。根気のいる作業です。

比較的糖度の出やすいミディトマトではなく、大玉トマトを"絞る"。管理のしやすい養液栽培でなく、土耕栽培。量を穫れる品種でなく病気に弱く気難しいけど味の良い品種。アテネファームのトマトづくりはどこまでもストイック。「金儲けのためと思ったらとてもやっとならん」

別な方法もあるのに、なんで手間のかかる方ばかり選ぶのでしょうか？

答えはただひとつ。すべては美味しい笑顔のため。



ごうすけの"こい"

【箱入り約1kg】3,456円(税込)

インターネットでお求め頂けます。

『アテネファーム』で検索してください

アテネファーム



下川へ



森とイエの活動が始まってから、年に数回また時期によっては月に数回、下川へドライブをする事になりました。当初数年間は、ほぼ国道239号線をトレースしていったのですが、建築家メンバーの櫻井さんと同乗して下川へ向かう際に、道道206号線ルートを選んで頂き、今では夏場の定番ルートとなっています。風連の田園風景の中や三角山周辺の森を抜けるながらのドライブは、季節の移ろいを感じられる楽しい時間です。

昨年完成した一の橋N-HOUSEは、今は建物と数本の木々があるのみですが、オーナーやその友人たちが描いているでっかい夢の中に建っています。自然の力により育まれる木々と森を支える人々。人の営みがより魅力的に映るような暮らしもよいですね。森とイエの活動の最終目標は、家を建てることではありません。まちや自然そして地域が元気になる、そこに暮らす人達が笑顔になる。実はそんな壮大な夢を持って取り組んでいます。もしそんな熱い想いに触れたくなったら、森とイエのイベントにお越しください。(中館誠治)



PR! 「森とイエ」のこと伝えよう



2015年6月27・28日、札幌にて「住まいと環境 東北フォーラム」「信州の住まいを考える会」「Dotプロジェクト」「ソトダン21」の4つの団体の合同研究会が開催されました。参加された皆さんの、これからの住まいのあるべき姿に真剣に考えていらっしゃる様子が垣間見え、これからの住まいはきっともっと良くなっていくだろうなととても嬉しく思いながらお話を伺わせて頂きました。

その中で、「森とイエプロジェクト」についてお話させて頂く機会を頂きまして、建築家メンバーの小倉さんより理念や仕組みについて皆さんに聞いて頂くことができました。

同じような想いをもった人がどこかにいるというのは心強いものです。

「森とイエ」が全国の人々に共感を持ってもらえるのももちろんですが、こうやって私たちが活動していることが、全国の皆さんの励みになるといいなと思いました。(新海直美)

